

令和7年度(令和6年度分評価) 学校法人滋慶学園 札幌看護医療専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

学校関係者評価員会実施日：令和7年6月25日(水)15時～17時

評価委員：(順不同 敬略 委員長◎) ◎三上真広 加藤 敦 佐藤忠寿 中村琢哉 對馬康次 桑原毅

【理念・運営目標】	札幌看護医療専門学校は、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを使命とし、「実学教育」「人間教育」「国際教育」を教育の柱とした、業界に直結した職業人の養成を実践する高等教育機関である。また、「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを学校運営の基本方針としている。 本校は、産官学を通じた最先端の医療教育とICT教育を展開し、高度な実践能力を備えた「地域医療を支える人材」育成を実現する。また、変化していく高度な実践能力を備えるために先端医療機関と協同しICT教育を開発し続け、教育の機会を創出することで自ら学び成長し続ける人材を輩出する次世代地域医療に貢献できる学校となる。		
【組織目的】	札幌看護医療専門学校は、産官学を通じた最先端医療教育とICT教育を展開し、高度な実践能力を備えた「地域医療を支える人材」育成を実現する。また、変化していく高度な実践能力を備えるために先端医療機関と協同しICT教育を開発し続け、教育の機会を創出することで自ら学び成長し続ける人材を輩出する次世代地域医療に貢献できる学校となる。		
札幌看護医療専門学校 【運営方針】	「産官学連携」「ICT教育」を軸に、学校・学科がONLY1となる。 1. 産官学連携とICT教育システムを完成させる。□ (1)先端医療機関と連携したICT教育を構築する。 (2)札幌学院大学との「大専連携」の先進事例をつくる。□ (3)多職種連携・専門領域「プラスα」のゼミ教育を構築する。 2. 常にイノベーションを図る組織となる。□ (1)資源活用事業の実施 学校資源(ヒト・モノ・情報)を活用した事業を実施する。 (2)学科のイノベーション、業界と顧客ニーズに合致した新商品開発を実施する。		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	令和6(2024)年度 自己点検	令和7(2025)年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題・改善方策
					【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない		
1 教育理念・目的・育成人材像	教育指導要領 入学案内 事業計画	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	学園の理念・目的・育成人材像を明確に定めている。 産官学連携とICT教育を学校作りの柱とし、産業界及び地域と共に学ぶ教育環境のもと、最先端の学びで地域に貢献する医療人を養成していく。	2025年度は開校5年目となるため、学園の理念や学校の方針・特色・将来像については繰り返し職員間で共有し、浸透を図る。	3.0	3.0	3.0	ICT教育の今後の進化が楽しみである	「まち全体がキャンパス」というコンセプトどおりに、近隣の医療機関や商業施設と連携がなされていることがわった。サンピアザの商業施設で学割が利用できるというのは、学校の魅力の一つだと思う。 札幌学院大学との関係性も、図書館や食堂の利用させてもらっていることや、今年は文化祭も共有するとの事で良い関係性を築けている。両校で手を取り合い、より一層の地域貢献がなされることを期待している。 ハイブリットシュミレーターやVR・AR・MRなどを使用したICT教育への取り組みは、学校の強味で、他の競合している学校との差別化にもなると思うので、ますます力を入れてほしい。 令和6年度の反省を令和7年度に活かしている点が評価できる。 理念、目的共に共有されそれらに基づく特色を活かした学校運営がなされてる。 学生全員に365アカウントが付与されているのはすごい。
		1-2 学校の特徴は何か	本校の特色は、「産官学連携とICT教育」である。医療×テクノロジーの新しい学びを推進し、医療現場のIT化、デジタル化に対応しうる人材の育成や産官学連携プログラムの構築により地域医療の発展に貢献できる人材の育成に取り組む。ICT教育を推進しWEBやSNSを通じて情報を常に発信し、新しい医療の学校としての価値(ブランド)を創る。	特に医療とテクノロジーの新しい学びの構築は、授業を実施しながら改善を繰り返していく必要があるため、職員間での学び合いを通じて精度を高めていく。	3.0	3.0	3.0		
		1-3 学校の将来構想を抱えているか	将来構想については、毎年作成する事業計画に5年先までの構想を明記し、長期的な視点で学校運営を行っている。刻々と変化する医療業界や地域のニーズを常に取り入れ、学科のイノベーションや新学科・新専攻等をスピード感を持って実践出来る組織にしていく。	イノベーションについては、2022年度から3学科で電子教科書の導入、視能訓練士学科で大学の心理学部等との選択ゼミ、臨床工学技士学科でオンラインスクールとの連携によるIT授業を展開しているので、効果検証を行い、ブラッシュアップしていく。	3.0	3.0	3.0		
2 学校運営	事業計画	2-4 運営方針は定められているか	学校運営方針は、滋慶学園グループ共通の5力年計画に基づき、明確に定めている。運営方針の実現のため、月2回の運営会議、月1回の職員全体会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。	組織の意思決定について 月に2回実施している運営会議にて意思決定をスピーディーに行っており、部署が抱える課題を早期に解決出来るようにする。	3.0	3.0	3.0	在学中から卒業後まで札幌看護医療専門学校に入学し学んだからこそその人の人生に寄り添い卒業後の人生においても情報システムの活用等学校が相談に乗って上げられるような仕組みになるとよい。 学生、教育、バックサポートの職員の自己成長を大切にしている組織であると感じました。 様々な会議をととして、職員の皆様で理念の共有がなされていると感じる。 組織的な運営が出来ており評価できる。 運営会議だけでなく毎月職員全体会議が開かれ組織の意思決定が周知、浸透されることは重要かと思う。一方働き方改革等の時勢の中負担過多にならない注意が必要。	
		2-5 事業計画は定められているか	学校の組織目的に沿った事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、各部署ごとのリーダーも部署別の計画と予算案を作成しスタッフと共有している。 新規校として開校まもないため、学校・学科の教育体制の整備と運営に係る経費の計画的な収支計画に沿った学校運営を図り中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。		3.0	3.0	3.0		
	事業計画	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学校運営に関する意思決定機能は運営会議が担っている。副校長・事務局長・学科長・部署長で構成されたメンバーでPDACサイクルを廻すプロセスを構築している。 目標志向性の高い組織運営が行われており、組織の全体像は、事業計画書の組織図に示されている。 教職員への通知は、毎日の朝礼・終礼や全体会議、職員間の情報システムを活用して遅れなく周知している。		3.0	3.0	3.0		
	就業規則	2-7 人事や賞金での処遇に関する制度は整備されているか	医療系学校としてのコンプライアンスに則り、人事採用計画、人材育成の研修は、システムとして確立され、機能している。採用は、学園本部が中心となり、採用広報、採用試験を実施している。採用にあたっては、採用基準の基、厳正に実施している。 また、学校・チーム・個人の目標を明確にした業務を遂行し、その成果に対して賞金制度を設けている。常に、職場満足度の高い職場環境創りを意識している。		3.0	3.0	3.0		
	事業計画	2-8 意思決定システムは確立されているか	明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。 各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・部署別会議等)で周知し、運営上、生じる課題についても早めに解決できるように心がけている。		3.0	3.0	3.0		
	学内システム	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	業務のマニュアル化とシステム化が推進され、学校に関する重要データ(学生・卒業生・教職員・広報・財務など)は学園の業務システムで一元管理されている。また、教職員個人の情報交換も「ガルーン」による学内コミュニケーションシステムや勤怠システム、精算管理システム、人事データバンクシステム等を構築し管理している。		3.0	3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	令和6(2024)年度 自己点検	令和7(2025)年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3: 出ている 2: 概ね出ている 1: 出えていない	【3段階評価】 3: 出ている 2: 概ね出ている 1: 出えていない	【3段階評価】 3: 出ている 2: 概ね出ている 1: 出えていない		
3 教育活動	教育指導要領	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	教育課程編成委員会を通じて業界の人材ニーズに向けてカリキュラム変更を行っている。また、厚生労働省の指定カリキュラム変更を見据えて各学科の教育協議会との連携を行いカリキュラムを検討した。	3-15授業アンケートについては、年1回の実施に留まってしまったため、今後は年2回の実施と各科目修了毎の全学年での導入が課題であり、これによりタイムリーな学生の声を授業改革に転用していく。	3.0	3.0	3.0	ICT教育のAI化学び直しに関する取り組みはとても良い。	
	教育指導要領	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	実学教育・人間教育・国際教育の理念の下、各学科の養成目的と教育目標を定め、修業年限に応じた教育到達レベルを明確に設定し、教育活動を実践している。教育成果については進級判定会議や卒業判定会議で到達レベルの確認が行われている。		3.0	3.0	3.0	医療人を大切に育てていることがわかりました。	
	教育指導要領	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	各学科ごとカリキュラムポリシーを明確に定めカリキュラムを定めている。また、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の各都を指導要領上に可視化し、科目間のさらなる連携を図った。		3.0	3.0	3.0	退学低学力者に対して生成AIを使用して対応していくという事だが、どんどん新しい技術を取り入れ実践していく姿勢にとても感心させられた。良い成果が出て国家試験合格率が上がり、退学者が減ることを期待したい。	
	教育指導要領	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	学科科目は厚生労働省の指針に基づいた、業界がもとめる医療人材育成のためのカリキュラム構成を行っている。また教育課程編成委員会による意見により科目横断的な、科目間の連携を図り、かつ学生の習熟度に適合するよう位置づけを行っている。		3.0	3.0	3.0	先進的な技術を取り入れながら学力の底上げを図っていることが評価できる。	
	教育指導要領	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	目標設定、実践、評価のプロセスからキャリア教育の推進を図るため、産学官協同教育のプログラムを導入し、協同研究・開発ができる企業・施設・自治体と連携を図った。		3.0	3.0	3.0	産学連携、ICTを意識した教育の充実がすすめられている。	
	授業調査/アンケート	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	授業アンケートは、9月、3月に実施し学校全体及び科目毎の課題を抽出した。公開授業により、新入職の授業改善の気付きを促す体制となっている。		3.0	3.0	3.0	授業アンケートを活かした授業改善は重要で改善内容が公表されているのが気になった。	
	教育指導要領	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	各専門分野の教員確保に尽力し、組織として教育ができるように配慮している。講師研修会では授業アンケートを元に在校生に合わせた教育研修を実施し、教員と講師の連携により協力体制を構築している。		3.0	3.0	3.0		
	キャリアサポートハンドブック	3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	学園グループ全体の方針に基づいた体系的なFD研修、分野ごとの教育部会にての研修を実施している。また、ICT教育研修会を適時実施し教育力向上に努めた。年2回の職業実践専門課程認定の教員研修会への参加を行い教員の資質向上に努めた。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要領	3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は学則、細則に示されているとおり明確である。また、評価の方法に関しても、シラバスに記載し、学生に公開している。		3.0	3.0	3.0		
	ホームページ	3-19 資格取得の指導体制はあるか	入学生の低学力化に伴い1年次からの国家試験対策を実施。長期休暇における学びの継続を仕掛ける対策についてカリキュラムと連動させ設定した。		3.0	3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	令和6(2024)年度 自己点検	令和7(2025)年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない	【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来てい る 1: 出来ていない	【3段階評点】 3: 出来ている 2: 概ね出来ている 1: 出来ていない		
4 教育成果	ホームページ	4-20 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2024年3月末における就職率向上にむけ積極的に取り組みを行ったが、卒業生の就職希望者率は、90.4%であり医療職就職率は99.4%とその他進学者の状況であった。未就職者は一部で国家試験結果後に就職受験の学生が存在しており、受験先への理解を得ながら4月以降も支援を続け希望者100%内定を目指したい。就職未希望の学生についても今後の就職率向上に向けた取り組みのアプローチをしていきたい。	クラス内および上級生下級生コミュニケーションを醸成するため、ピアサポートができる環境を構築していく。	2.6	3.0	2.8	入学時に極力受け入れることで学生のチャンスをつぶさないようにしているが、入学者数の確保と辞めない学生の判別はむづかしいと思う。。入学後に自分の人生観と合わずに退学することはやむを得ないと思う。	
	ホームページ	4-21 資格取得率の向上が図られているか	毎年、前年の振り返りとともに、時期ごとの目標設定、各検定試験ごとの目標合格率設定を行っている。また、正課外の補習、個別対応を行っている。入学時の基礎学力テストにより、低学力者の早期発見とサポートを実施しているほか、全学科で自己学習の早期習慣化に取り組んでいる。医療系国家資格の取得については、全4学科中2学科において、100%合格となった。全学科全国平均を上回った。		2.6	2.0	2.7	退学率に関しては、低い数値をキープできているので学校の取り組みが良いのかなと感じる。ある程度の退学に関しては抑えきれないというのが現実だと思うので、退学率が全国平均より低い状況の中でも、さらに退学者を出さないように取り組んでいる姿勢に感心させられる。ここ何年かで変化した退学にいたる理由に関しては、コロナ禍での環境が生徒に影響されており、年々低下してきている学力による問題も人と人との関わりによる影響というのはとても重要だと感じられ、生徒との関わりを大切にしていきたい。	
	ホームページ	4-22 退学率の低減が図られているか	退学率について、目標は未達成である。一人ひとりの可能性を最大限に開花させるために、転科転校も視野に入れ、本人の新たなキャリアプランをサポートしている。2024年度の退学者は6.4%であった。		2.2	2.0	2.6	資格取得の向上に改善が見られており評価できるが、全員合格に向けて更なる努力を期待する	
	学校案内より 卒業生紹介	4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	業界と学校との強固なパイプ作りに、卒業生の就職先訪問を積極的に実施し、同窓会活動を通じて連携を図っている。		3.0	2.0	2.4	資格取得率、就職率の高く努力されていいる中退学率の低下への取組みも充分評価できる。	
5 学生支援	キャリアセンター資料	5-24 就職に関する体制は整備されているか	キャリアセンターと教務が一体となって、学生の就職支援にあたっている。各学科の就職活動の時期を意識し、就職講座や一部の学科では企業合同説明会などを開催することにより、就職意識を醸成している。また学生には、企業(求人)情報の提供や状況に合わせた模擬面接を実施するなど、早期就職内定の向上に努めている。一方、キャリアセンターは定期的に各企業へ訪問し、求める人材や業界動向などを察知し、学校(教務)にフィードバックする体制を取っている。	星槎大学との教育連携にて併修制度が可能となる。学びの可能性を模索していく。	3.0	3.0	3.0		
	キャリアサポートハンドブック	5-25 学生相談に関する体制は整備されているか	カウンセラー（臨床心理士）が勤務するSSC（チューデントサービスセンター）が整備されている。SSC開設日を平日のみから土曜実施することで利用率の向上があった。		3.0	3.0	3.0		
	ファイナンシャルアドバイザー資料/学生募集要項	5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	本校の学生のおよそ7割が給付奨学金を含む日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度の利用率は非常に高い。そのため学生支援事務局においても奨学金に関する専門スタッフの育成と学生教育に力を入れている。また、家庭の状況に応じた相談も行っており、学費納入方法についても柔軟に対応している。学科においては年に1回保護者会を実施し情報の告知と案内の徹底を図っている。		3.0	3.0	3.0	ファシリテーション等就職後も人生において大いに役立つスキルなど教育カリキュラムに入れたり、授業外の時間でも希望者がいればセミナーを開催する等学校としてオプションを用意することも支援の特色づくりになるかもしれない。	
	衛生委員会資料	5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	札幌検診センターでの健康診断の実施に関しては学校保健法に規定するコンプライアンスを遵守し、学生の健康状態の把握と改善を行い、医療法人慶心会による健康管理体制の協力により健康管理の組織体制は整っている。		3.0	3.0	3.0	学校側が費用負担により教職員にキャリアコンサルティングの資格を取得してもらうことも良いと思う。	
	学生便覧	5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか	地域と協力し、厚別区ボランティアの情報を都度学生に共有するシステムを構築。また札幌学院大学との連携により課外サークル活動の紹介を行っている。		3.0	3.0	3.0	各学科の同窓会活動はもちろんだが、学校全体の同窓会も発足以来活動していないので、活動できるよう学校側にもっと尽力してほしい。	
	学生寮紹介パンフ	5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮については恵庭地区に男子寮1棟、女子寮1棟、男女共用寮2棟を有しており、その他近隣の学生会館、不動産の斡旋により地方からの学生対応ができる体制となっている。寮には寮長が在駐し健康管理、生活指導を担っている。		3.0	3.0	3.0	SSCの土曜日開設は良い取組みであり評価できる。今後も学生支援に力を入れて欲しい。	
	各保護者会資料	5-30 保護者と適切に連携しているか	各学科においてオンラインを含めた保護者会を入学後学年ごとに実施をしている。保護者説明会では、学習面、就職面、国家試験等の報告を実施の他、必要に応じ学費相談や個別保護者面談による問題解決を行っている。		3.0	3.0	3.0	厚別区からのボランティアや札学大との連携によるサークル活動や図書館利用等「地域が火の玉」を実践している。	
	各卒後セミナー/勉強会	5-31 卒業生への支援体制はあるか	北海道ハイテクノロジー専門学校卒業生と、2022年3月以降の本校卒業生に対して、同窓会組織を結成したが、前年度までの実施は臨床工学技士学科のみであり、コロナ禍における障壁が解除された今後については、各学科での卒後教育の勉強会の実践等を通じて同窓会の実施を計画していきたい。		2.8	2.0	2.5	同窓会活動は在校中も含め愛校心を育む意味で大切だと考える。	

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	令和6(2024)年度 自己点検	令和7(2025)年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来てい る 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない		
6 教育環境	口頭説明	6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法規上の施設設備は整っており、追加のシミュレーターを購入。また、汎用性およびトラブルが少ないipadに全学科変更。	本学の国際教育の目的達成させる研修を他校と連携し計画予定。	3.0	3.0	3.0	開校から4年経過したが、学校内がきれいに整っており、環境整備が行き渡っていて、すばらしい。 今は実習設備が整っているが、今後ますます医療機器も進歩していく中で、最新の設備投資がなされる事を期待する。 海外研修の機会を再構築できると良い。学生に広い視野を持つきっかけになるのではないかな。 教育施設設備は充分整備されている。	
	海外研修資料	6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学外実習については、十分な教育体制を整備しており、学科ごとに企業と連携した実習が計画されている。海外研修は、海外情勢の影響を受け、授業や特別講話にて体験を聴講。		3.0	3.0	3.0		
	防災訓練資料	6-34 防災に対する体制は整備されているか	学生、教職員ともに防災訓練を定期実施。災害時の安否確認システムを構築し全校の中で100%回答率を達成。AEDは設置しており、防災訓練時に救急時の研修も実施。		3.0	3.0	3.0		
7 学生の募集と受け入れ	募集要項	7-35 学生募集活動は、適正に行われているか	学生募集活動は、専修各連の定める募集基準に則り、AOエントリーは6月から、出願は9月からその他の受験方法による出願は10月から受け付けている。募集要項に関しては、入試制度、奨学金制度、学費に関して受験生にとってわかりやすい掲載方法を実施している。	医療×テクノロジーの新しい学びを推進、医療現場のIT化、デジタル化に対応しうる人材の育成や産官学連携プログラムの構築により地域医療の発展に貢献できる人材の育成に取り組む。WEBやSNSを通じて情報を常に発信し、新しい医療の学校としての価値(ブランド)を創る。	3.0	3.0	3.0	学生を集めるにも少子化問題や他の学校との競合もありどんどん厳しい状況になっており、学校の魅力である、施設のすばらしさ、ICT教育や立地条件をいかして、定員数をどうにかキープしてほしい。 少子化の影響でどの学校も厳しい状況にあると思う。特色を活かしながら実績をの越していくことを期待する。 学生募集において地方での説明会開催も実施され、ICTも利用したオープン化シブスの開催等遠隔地からの参加が出来るよう工夫されている。	
	入学案内/募集要項	7-36 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	教育の成果はHPや媒体を通じて広く発信。オープンキャンパスを通じて学校の特徴を体感できるプログラムを構築している。また、地方都市での説明会を実施し、地方在住の高校生を動員することができた。		3.0	3.0	3.0		
	学則	7-37 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしており、入学選考委員会を設け入学試験の判定会議を適正かつ公平な基準のもとに実施している。		3.0	3.0	3.0		
	学生募集要項	7-38 学納金は妥当なものとなっているか	学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適正に行っている。		3.0	3.0	3.0		
8.財務	財務資料	8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	キャッシュフローの形態を重視し、収入と支出のバランスはとれており、貸借対照表の翌年度繰越収入超過金はなく負債における問題はない。	予算と実績の差異については、過去の実績をもとに精緻な予算をたて、定点チェックする事で実績を管理していく。	3.0	3.0	3.0	適切に計画処理されている。	
		8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	校舎の新築による設備投資に対する返済計画と事業収支計画を見直し学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。運営面においては管理費等の項目で予算と実績の差異が生じた。		3.0	3.0	3.0		
		8-41 財務について会計監査が適正に行われているか	理事会においての内容精査し、監事による監査と外部の監査法人である公認会計士の監査を行っている。		3.0	3.0	3.0		
		8-42 財務情報公開の体制整備はできているか	「財務情報公開規程」を作成し財務情報の公開にあたって必要最低限の項目を定め公開している。具体的な事項は「情報公開マニュアル」を作成し、「財務情報公開規程」により管理、運営を行っている。		3.0	3.0	3.0		
9.法令等の遵守	監査資料	9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準の変更等に伴う申請手続き等を迅速に対応できる体制づくりを行っている。教員間での法令・基準の遵守に対する教育、又は研修を継続的に実施している。また、監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックしている。	引き続き法令順守、個人情報保護、自己点検・自己評価に基づく学校運営の改善を図っていく。	3.0	3.0	3.0	コンプライアンスについては特に力を入れて意識して欲しい。	
	ホームページ	9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	日本プライバシー認証機構より個人情報保護規程運用状況監査を受け、学生、保護者、企業、講師、入学希望者についての個人情報保護について、規定に則り運用を行っている。また、スキル向上のための取り組みとしてITリテラシー資格の取得や研修会を実施している。		3.0	3.0	3.0		
	ホームページ	9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価についての方針、実施を開始し、委員会の形成と外部評価を実施している。学校関係者評価、並びに教育課程編成委員会での意見を十分に反映し、カリキュラムの見直しやICT教育を含めた新しい教育体制の確立に向けて準備を行っている。		3.0	3.0	3.0		
	ホームページ	9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか	毎年自己点検・自己評価を実施し、HPによる公開は既に実施している。自己点検自己評価結果をもとに、重点課題について学校関係者評価員と学校づくりの検討を行い、更なる評価の向上に努めている。		3.0	3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	令和6(2024)年度 自己点検	令和7(2025)年度 重点目標	昨年度 学校関係者評価 (平均)	本年度 自己点検自己評 価	本年度 学校関係者評価 (平均)	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
					【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来てい る 1:出来ていない	【3段階評価】 3:出来ている 2:概ね出来ている 1:出来ていない		
10.社会貢献	各種セミナー 資料	10-47 学校の教育資源や 施設を活用した社 会貢献を行っている か	厚別区と連携し地域の健康に貢献するため、朝ヨガや新さっぽろ健康フェスに参画。 また、札幌学院大学と連携し、AED取り扱い講習会を実施。さらに厚別区内にある老 健施設の職員向けの救命講習会を実施した。	今後も地域との連携を重点課題とし、厚別区・新札幌 地区と連携して地域でのボランティア活動と地域課題 の解決に取り組んでいく。 また、学校資源を活用した取り組みを推進する「学校 資源活用事業」を2025年度計画に盛り込み、実行して いく。	3.0	3.0	3.0	企業と学校コラボ研究(ファムテック協力)もと ても良い取り組みだと思います。 様々な取り組みにて地域貢献がなされていると 思う。こういう取り組みを通して地域の方々から も学ぶ事が多くあると思うので、まち全体で学 生を育てる環境であると感じる。 今後も地域と一体となった取組みを期待する。 新さっぽろエリアマネジメントの活動をはじめ地 域連携、協力による街づくりは本学にとっても大 切だと考える。	
	各種ボラン ティア紹介	10-48 学生のボランティア 活動を奨励、支援し ているか	地域と協力し、歯科衛生士学科において幼児向けの歯ブラシ指導等の予防教育、 視能訓練士学科において地域の保育園児の眼科検査にあたった。		3.0	3.0	3.0		
11 国際交流	口頭説明	11-49 グローバル人材の 育成に向けた国際 交流などの取り組 みを行っているか	海外情勢の影響により海外研修は実施できなかった。しかしながら学生に国際教育 を提供するため、海外とのオンライン講話や国際経験がある講師に授業を通じて教 育を各学科で開催した。	学園のグループネットワークを活用し、他校連携し海 外研修を計画中。	2.8	3.0	2.8	国際感覚を養う教育を継続してもらいたい。	